

(第3種郵便物認可)

「阪神・淡路」からの復興願い復活

西宮えびす座 めでたく10年

阪神・淡路大震災からの復興を願って結成された「人形芝居えびす座」が今年で10周年を迎えた。座長の武地秀実さん(60)＝神戸市西区＝は、明治時代に廃れたといわれる西宮市の人形遣いを復活させ、「平成の傀儡師」と呼ばれる。「えべっさんの町」として定着してほしい。現代の傀儡師は伝統に独創性を加えた芸を伝える。(尾藤央一)

「人形芝居」座長・武地秀実さん

「釣れるかな。今日も夕町時代後期から明治時代にイが釣れるかな」。毎月10日、武地さんのごぶしの利いた声が西宮神社(西宮市社家町)の境内に響く。赤い頭巾に和装姿でえびす人形が入った箱を首から下げ、太鼓や語りに合わせて人形を巧みに動かす。「えべっさん」の総本社である西宮神社周辺には室

独創性加え海外でも公演



えびす様を操る「人形芝居えびす座」座長の武地秀実さん＝西宮神社

が進まない。神社近くにある、震災で大半が倒壊した西宮中央商店街が再生と地域のシンボルとして「傀儡師」の復活に取り組んだ。武地さんは西宮、芦屋市で評判のお店や人物を紹介する地域情報紙「ともも」を発行。事務所を同商店街に置いていた縁で、復活プロジェクトに携わった。一度途絶えた伝統芸能を復活させるのは難しい。当時にせりふが分ならず、全

国に残る神楽や人形浄瑠璃の「えびす舞」を参考に創作。時事話題も加え、風刺の効いた平成の人形芝居に仕立てている。室町時代の史料には「まるで能狂言のよう」と記されていたことから、武地さんは大蔵流の狂言を習い、言い回しや発声、所作も学んだ。現在、地域情報紙の編集長を務める傍ら、灘子方ら数人と市内の小中学校や地域のイベントで上演し、今年2月には10周年を記念したカンボジアでも演じた。武地さんは幼少時代、大好きな踊りを通じて心の中を表現し、世界を駆け巡るライターになることを夢見ていたといい、「えびす舞を海外に伝えることもでき、やっとながめがかなかったです。これもえべっさんのおかげかな」と笑顔を見せた。

人形芝居えびす座 ☎0798・339・1723

